

2025年度

科目名称	臨床動作分析
授業コード	AD331
英語名称	Clinical Movement Analysis
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	田中 和哉, 平賀 篤, 渡邊 修司
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	運動学及び基礎理学療法学実習で得られた基本的知識を元に、系統障害別に姿勢・動作を観察・分析手法を学ぶ。正常姿勢・動作との違いを明らかにし、逸脱動作と機能障害の関連性について学ぶ。上記について理学療法士の臨床経験のある教員がそれぞれの専門分野を担当し講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・理学療法士を目指す上で必要な評価方法の一つである動作分析について、理学療法士としての臨床経験のある教員がそれぞれの専門分野を分担して講義する。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる、「理学療法士国家資格に準拠した基礎医学、臨床医学および理学療法の専門的知識を修得している」、「基本的な理学療法を実践できる知識と技術を身につけている」を達成するため以下をを本講義の到達目標とする。 1. 基本的な姿勢や動作を力学的に説明できる 2. 人の正常動作を分析できる能力を獲得する 3. 機能障害の原因を分析能力を獲得し、理学療法治療への示唆を得る 4. 動作分析を展開し、臨床的推論過程を理解し、他者に説明することが出来る
計画・内容	1)オリエンテーション 担当：田中・渡邊修、理学療法士 2)力学的基礎 担当：田中・渡邊修 理学療法士 3)動作を力学的に理解するための要点 担当：田中・渡邊修 理学療法士 4)動作分析の概要 担当：田中・渡邊修 理学療法士 5)動作の記述方法 担当：田中・渡邊修 理学療法士 6)動作分析の手順 担当：田中・渡邊修 理学療法士 7)動作分析の手順 担当：田中・渡邊修 理学療法士 8)動作分析の手順 ・動作分析の臨床例 担当：田中・渡邊修 理学療法士 9)正常動作の観察と分析 担当：田中・平賀・渡邊修 理学療法士 10)正常動作の観察と分析 担当：田中・平賀・渡邊修 理学療法士 11)異常動作の観察と分析（整形外科疾患） 担当：渡邊修・田中 理学療法士 12)異常動作の観察と分析（整形外科疾患） 担当：渡邊修・田中 理学療法士 13)異常動作の観察と分析（中枢神経疾患） 担当：平賀・田中・渡邊修 理学療法士 14)異常動作の観察と分析（中枢神経疾患） 担当：平賀・田中・渡邊修 理学療法士 15)まとめ 担当：田中・平賀・渡邊修 理学療法士
授業の進め方	・講義と演習で進行する。
能動的な学びの実施	・アクティブラーニングを取り入れ、実習や演習を適宜行う。 ・課題発表を行い、全員でディスカッションを用いて解決案を導いていく。
授業時間外の学修	予習：講義内容を事前学習すること・教科書を概観しておくこと(60分程度) 復習：授業内容をまとめる(60分程度)

2025年度

教科書・参考書	教科書： 観察による歩行分析 月城慶一 山本澄子 江原義弘訳 医学書院 動作分析 臨床活用講座—バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 石井慎一郎 メジカルビュー社
成績評価方法と基準	○成績評価方法と基準 課題レポート(30%) 期末試験(70%)
課題等に対するフィードバック	○課題等に対するフィードバック 提出されたレポートの内容をもとに授業に反映させ、または資料を配布する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	演習では実技をするのに相応しい服装で臨むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 オンライン講義とレポート課題にて講義を進める 成績評価方法と基準 レポート課題(100%)

2025年度

科目名称	理学療法評価学
授業コード	AD223
英語名称	Physical therapy evaluation
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	安齋 久美子, 新永 拓也, 渡邊 修司, 田中 和哉, 相原 正博
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	【目的】社会的基礎能力の養成を行う。 理学療法評価の意義を理解し、特定の疾患に限らず広範に用いられる理学療法評価の基本的知識、技術を学ぶ。また、理学療法士が行う検査測定結果から目標設定、理学療法プログラム立案につながる臨床推論の基本的な流れを学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	総合病院、回復期病院、整形外科病院での臨床経験のある担当教員が教授する。
到達目標	【科目特有の知識・技術についての到達目標】 1.理学療法における評価の意義・目的を説明できる。理学療法評価の対象に合わせた評価計画の立案ができる。各種画像、検査結果から実施上の留意点が説明できる。評価結果の記録ができ、それらを統合・解釈する方法を説明できる。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 2.カリキュラムポリシーに挙げる「医療・福祉・保険領域のスペシャリストとなる臨床的実践力の育成の場として、問題解決能力、表現能力、コミュニケーション能力などのキャリアを形成する目的で」理学療法評価の基本的知識を身につける。
計画・内容	1) オリエンテーション・理学療法評価の意義と目的、形態測定 担当教員：安齋久美子（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 2) 関節可動域測定 担当教員：安齋久美子（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 3) 知覚検査・痛みの評価 担当教員：安齋久美子（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 4) 筋力測定（徒手筋力検査法） 担当教員：安齋久美子（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 5) 意識障害尺度・評価の記録（SOAP） 担当教員：安齋久美子（理学療法士）

計画・内容	予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 6) 医療面接・情報収集 担当教員：安齋久美子（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 7) 心電図波形 担当教員：新永拓也（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 8) 動作解析画像 担当教員：田中和哉（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 9) 超音波エコー画像 担当教員：渡邊修司（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 10) 筋電図波形 担当教員：相原正博（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 11) 理学療法評価（ICF） 担当教員：安齋久美子（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 12) 理学療法ガイドライン 担当教員：安齋久美子（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 13) 理学療法評価の計画（１） 担当教員：安齋久美子（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 14) 理学療法評価の計画（２） 担当教員：安齋久美子（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間) 15) 検査測定結果の統合と解釈 担当教員：安齋久美子（理学療法士） 予習：教科書や参考書の該当箇所を調べて読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書や配布資料と関連付けて、自分の講義ノートを整理すること(2時間)
授業の進め方	教科書や配布資料をもとにパワーポイントを使用した授業形式で進行する。内容によっては、講義の中でワークシートの作成やグループディスカッションなどを行う。

2025年度

能動的な学びの実施	毎回確認テストとその解説を行い、授業回ごとに理解度の振り返りを行う。アクティブラーニングを取り入れ、演習を適宜行う。グループ分けを行い、課題についてディスカッションを行い、解決案を導いていく。
授業時間外の学修	予習：教科書・参考書を用いて該当箇所をノートにまとめる(1時間) 復習：授業内に学習した内容を予習ノートに上書きし、重要な個所を整理する(2時間)
教科書・参考書	「理学療法評価学 改訂第6版補訂版」松澤 正、江口勝彦著 金原出版株式会社
成績評価方法と基準	定期試験(80%) + 課題レポート (20%)
課題等に対するフィードバック	小テストの答案を返却して、授業内で解説を行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	この科目で修得する内容は、理学療法評価学実習、で学ぶ検査測定的前提となる基本的知識である。3つの科目の繋がりを意識して学修すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ズームを用いたリアルタイムの遠隔授業を行う。資料は事前にキャンパススクエアから入手のうえ、講義に出席すること。 成績評価方法と基準 定期試験(80%) + 課題レポート (20%)

2025年度

科目名称	理学療法評価学実習
授業コード	AD224
英語名称	Physical Therapy Evaluation Practice
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	渡邊 修司, 五味 雅大, 佐野 徳雄, 平賀 篤, 新永 拓也, 相原 正博, 青柳 達也
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	理学療法の基本となる理学療法評価について学ぶ。理学療法評価は、検査や測定から得られた対象者に関する種々のデータを分析、考察して、対象者の障害像を総合的に把握することを目的として実施されることから、理学療法評価の習得は、安全かつ適切な理学療法的介入を実践する上で必要不可欠である。従って、本講義では基本的な検査や測定方法について体験し、安全に配慮したうえで施行できる技術の修得を目的に講義を進めていく。なお、理学療法士としての実務経験のある教員がそれぞれの専門分野を分担して講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	病院、介護老人保健施設等、関連医療機関における理学療法士としての実務経験のある教員が、それぞれの経験や専門分野に基づいた理学療法評価技術と、臨床推論について講義する。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「基本的な理学療法を実践できる知識と技術を身につけている。」や「理学療法士国家資格に準拠した基礎医学、臨床医学および理学療法の専門的知識を修得している。」を達成するために以下を到達目標とする。 1.理学療法における評価の必要性、評価の手順を説明できる。 2運動学,解剖学,生理学に基づき形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、反射検査、感覚検査、片麻痺機能検査、協調性検査が実施できる。
計画・内容	1) オリエンテーション、総論、形態測定（四肢長） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 2) 形態測定（四肢周径） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 3) 関節可動域測定（総論、上肢1：肩関節、肘関節、前腕） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 4) 関節可動域測定（上肢2：手関節 下肢1：股関節） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 5) 関節可動域測定（下肢2：膝関節、足関節、足部） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 6) 関節可動域測定（頸部・体幹） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

- 7) 関節可動域測定（肩甲帯）
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 8) 筋力測定（総論、段階付け、下肢1：股関節、膝関節）
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 9) 筋力測定（下肢2：足関節 上肢1：肩関節）
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 10) 筋力測定（上肢2：肘関節、手関節）
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 11) 筋力測定（頸部・体幹）
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 12) 筋力測定（肩甲帯）
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所の課題を実施しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 13) 形態測定・関節可動域測定・筋力測定のまとめ（実技試験）
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 14) 形態測定・関節可動域測定・筋力測定のまとめ（実技試験）
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 15) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定1
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 16) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定1
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 17) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定2
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 18) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定2
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 19) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定3
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 20) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定3
 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）
 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)
 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
- 21) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定4

2025年度

計画・内容	担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 22) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定4 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 23) 関節可動域測定・筋力測定・感覚検査・反射検査のまとめ（実技試験） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)
授業の進め方	授業第1 - 12回：複数グループに分かれ、各教員のもとで実技形式の授業を受ける。 授業第13 - 14回：形態測定・関節可動域測定・筋力測定について確認実技試験（中間実技試験）を実施する。 授業第15 - 22回：複数グループに分かれ、各教員のもとで実技形式の授業を受ける。 授業第23回目：関節可動域測定・筋力測定・感覚検査・反射検査について確認実技試験（学期末実技試験）を実施する。 授業内の実技練習では基本的に二人一組となり、検査者と被検者の役割を分担・交代しながら評価方法を修得する。
能動的な学びの実施	授業中は必要に応じて実習(ロールプレイングなど)を行う。また、適宜小テストなども実施するため、積極的な授業参加が求められる。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと（各回1時間） ・学習した項目の実技練習を行うこと（各回2時間）
教科書・参考書	津山直一，中村耕三 訳：「新・徒手筋力検査法」 協同医書出版社 齋藤慶一郎著「ROM計測法」 メジカルビュー社 鈴木 則宏 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 第3版 メジカルビュー社
成績評価方法と基準	中間実技試験（50%） 学期末実技試験（50%） にて総合的に評価する
課題等に対するフィードバック	実技練習では、各練習ペアに教員が適宜フィードバックを行う。レポート課題などに対してはコメントを記入または口頭にてフィードバックを行い、返却する。
オフィスアワー	Campusquareを参照。
留意事項	・実技授業が主であり、必要な際には直ちにTシャツ，短パンになれるように準備しておくこと。 ・他者の身体に触れるため髪形や爪などにも留意すること。 ・実技授業においては必ず各自で予習・復習を行うこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・zoomによるオンライン授業と課題学修に加え、授業回数を制限した上で可能な限り対面授業を実施する。 ・完全非対面授業の場合はzoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法 ・可能な限り対面による実技試験を実施する（ 中間実技試験（50%） 学期末実技試験（50%）） ・完全非対面授業の場合はレポート課題（50%）及び授業中課題（50%）にて総合的に評価する。

2025年度

科目名称	理学療法評価学実習
授業コード	AD274
英語名称	Physical Therapy Evaluation Practice
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	佐野 徳雄, 五味 雅大, 吉沢 剛, 新永 拓也, 渡邊 修司, 田中 和哉, 相原 正博, 青柳 達也
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	理学療法評価の目的は、検査や測定から得られた対象者に関する種々のデータを分析、考察して、対象者の障がい像を総合的に把握することであり、理学療法評価の習得は理学療法士が安全かつ効果的な理学療法的介入を実践する上で必要不可欠である。従って、本講義では、理学療法評価の総論、形態測定と関節可動域測定、徒手筋力測定法、神経学的検査、バランス反応の評価などについて、病態に対応して実践的に実施する方法を学習する。講義で学んだ各種検査・測定法については、臨床経験のある教員のデモンストレーションを参考に、学生同士で実際に行い理解を深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士を目指す上で必要な、理学療法評価学における検査や測定方法、データの分析や考察方法について、理学療法士としての臨床経験のある教員がそれぞれの専門分野を分担して講義する。
到達目標	【科目特有の知識・技術についての到達目標】 2年次前期の「理学療法評価学」、「理学療法評価学実習」と併せ、形態測定、徒手筋力検査、関節可動域測定、感覚検査、反射検査などの量的検査項目について、疾患を想定した状況で実施できることを目標とする。また、各検査項目に関して、運動学、解剖学、生理学、各種病態の知識に基づき、各種疾患障害に対応した測定をできるようにする。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 検査結果について、疾患に即した解釈を行う能力を身につける。
計画・内容	1) 理学療法評価の目的 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 2) リスク管理を伴う理学療法評価 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 3) 姿勢観察と理学療法評価 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 4) 動作観察と理学療法評価 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 5) 立ち上がり動作分析と理学療法評価 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 6) 立ち上がり動作分析と理学療法評価 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 7) 歩行動作分析と理学療法評価 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 8) 歩行動作分析と理学療法評価 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 9) 歩行動作分析と理学療法評価 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 10) 歩行動作分析と理学療法評価 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 11) 関節可動域測定と徒手筋力測定 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 12) 関節可動域測定と徒手筋力測定 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 13) 関節可動域測定と徒手筋力測定の検査選択と解釈 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 14) 関節可動域測定と徒手筋力測定の検査選択と解釈 (担当教員 佐野,相原,新永,渡邊：理学療法士) 15) 理学療法評価 バランス検査 (担当教員 佐野,相原,新永：理学療法士) 16) 理学療法評価 各論 運動器疾患の理学療法評価 (担当教員 相原,佐野：理学療法士) 17) 理学療法評価 各論 運動器疾患の理学療法評価 (担当教員 相原,佐野：理学療法士) 18) 理学療法評価 各論 運動器疾患の理学療法評価 (担当教員 渡邊,佐野：理学療法士) 19) 理学療法評価 各論 運動器疾患の理学療法評価 (担当教員 渡邊,佐野：理学療法士) 20) 理学療法評価 各論 中枢神経系疾患の理学療法評価 (担当教員 佐野,渡邊：理学療法士) 21) 理学療法評価 各論 中枢神経系疾患の理学療法評価 (担当教員 佐野,渡邊：理学療法士) 22) 理学療法評価 各論 中枢神経系疾患の理学療法評価 (担当教員 新永,佐野：理学療法士)

2025年度

計画・内容	23) 理学療法評価 各論 中枢神経系疾患の理学療法評価 (担当教員 新永,佐野:理学療法士)
授業の進め方	・教科書を中心に各理学療法検査項目及び評価方法について、講義や教員のデモンストレーションをした後、学生同士で実技演習を行う。
能動的な学びの実施	・アクティブラーニングを取り入れ、実習や演習を適宜行う。 ・グループ分けを行い、課題について全員でディスカッションを行い、解決案を導き発表を行う。
授業時間外の学修	予習:教科書の項目を予習しておくこと・検査測定の基本知識について学習しておくこと(40分程度) 復習:教科書及びプリントを復習しておくこと(40分程度)
教科書・参考書	【参考図書】 松澤正,江口勝彦 著「理学療法評価学 改訂第6版」金原出版株式会社 津山直一,中村耕三 訳「新・徒手筋力検査法」協同医書出版社 齋藤慶一郎 著「ROM計測法」メジカルビュー社 鈴木則宏 著「神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 第3版」メジカルビュー社 市橋則明 著「理学療法評価学 障害別・関節別評価のポイントと実際」文光堂 細田多穂 監修「シンプル理学療法学シリーズ 理学療法評価学テキスト」南江堂
成績評価方法と基準	筆記試験(50%) 実技試験(50%)
課題等に対するフィードバック	提出された課題レポートの内容をもとに授業に反映させる。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・実技演習授業が主であり、必要な際には直ちにTシャツ,短パンになれるように準備しておくこと。 ・実技授業においては必ず各自で予習・復習を行うこと。 ・実技試験は臨床実習に即した身なりで実施する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・zoom によるオンライン授業と課題学修を組み合わせ実施する。 成績評価方法 ・授業中課題 50%と期末レポート50%で評価する。

2025年度

科目名称	運動療法学
授業コード	AD225
英語名称	Therapeutic exercise
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	相原 正博, 五味 雅大, 北山 哲也, 山田 洋二
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	理学療法士は、各疾患に対応すべく、治療的側面で起こる様々な事象を常に的確に捉え、QOL向上に向け、ニーズに応じた治療アプローチの方略と手段を変換していくことが要求される。特に理学療法の中で最も代表的・中心的な柱として挙げられるのは、運動療法であろう。その為、解剖学、生理学、運動学を基礎とし、各疾患学を網羅した総合的な内容を統合・解釈し、臨床現場で実践していくことが必要とされる。 そこで、本講義は、運動療法の軸となるべき各理論に主眼を置き、理学療法士として様々な疾患を担当した臨床経験を持つ教員が講義・演習を通じて、臨床場面における事象ひとつひとつについて説明する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	急性期から回復期、生活期の病院にて、脳血管障害や整形外科疾患、内部障害を有する患者に、長年リハビリテーションに従事してきた教員が講義を担当する。その経験を活かして、理学療法における運動療法の基本的な事項について、応用的な疾患別運動療法を修得する前の導入として講義する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーにある基本的な理学療法を実践できる知識と技術を身に付けるため、以下の目標掲げている。 【科目特有の知識・技術についての到達目標】 運動療法に関する基礎理論について、深く学習し、理解・説明し、実践できるようになる。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 運動療法学の基礎に触れ、将来の社会人としての実効性を持つようになる。
計画・内容	1) 運動療法に関する基礎知識：相原（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度） 2) 関節構造と関節運動学（拘縮のメカニズムを中心に）：相原（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度） 3) 運動療法の基礎（関節可動域運動）：相原（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度） 4) 筋収縮メカニズム（筋長と張力）：相原（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度） 5) 筋収縮メカニズム（筋力増強のメカニズムを中心に）：相原（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度） 6) 運動療法の基礎（筋力増強運動）：相原（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度） 7) 運動療法の基礎（姿勢異常）：山田（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度） 8) 運動療法の基礎（バランス・平衡機能低下）：山田（理学療法士）

2025年度

計画・内容	予習：指定教科書、授業資料を読む 復習：講義範囲の関連資料をまとめる。 9) 運動療法の臨床応用（バランス・平衡機能低下）：山田（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度） 10) 運動療法の基礎（起居移動動作能力低下）：五味（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度） 11) 運動療法の臨床応用（起居移動動作能力低下）：五味（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度） 12) 運動療法の基礎（感覚異常）：五味（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度） 13) 運動療法の基礎：北山（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度） 14) 運動療法の臨床応用：北山（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度） 15) 運動療法学のまとめ（理解度の確認）：相原・山田・五味（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）
授業の進め方	指定教科書や配布する資料を参考にしながら，講義を進める． 他に適宜ビデオや資料などを提示し、講義内容の理解を図る。
能動的な学びの実施	学生への質問も活発に行う予定であるため、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当箇所を読み，不明な点をまとめておくこと（各回 1 時間～2 時間） ・教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（合計 15 時間程度）
教科書・参考書	教科書：対馬栄輝 編集「運動療法学」MEDICAL VIEW 参考書：岩倉博光 監修「理学療法士のための運動療法」,金原出版， 千住秀明 監修「運動療法」，神陵文庫など。 その他、開講時にプリントにして配布する。
成績評価方法と基準	期末試験（100％）によって評価．
課題等に対するフィードバック	・学生からのコメントペーパーの内容をもとに，授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法 ・授業中課題50％と期末レポート50％で評価する。

2025年度

科目名称	運動療法学実習
授業コード	AD275
英語名称	Exercise Therapy Practice
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	渡辺 長, 五味 雅大, 毛利 元樹, 青柳 達也
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	運動療法は、理学療法士が対象者の治療・支援を行うために用いる主要な手段の一つである。そのため、理学療法学のコアカリキュラムの専門領域となる運動療法の理論的解釈を深め、理学療法の基本的な知識、技術、態度、実践力の体得を目指す。さらに、疾病の急性期から終末期までの全病期のリハビリテーションに対する理学療法介入の基礎技術となる運動療法を身に付けることで、専門職連携に求められる自らの役割や専門性について理解する。理学療法士としての臨床経験のある教員が、実務経験を活かして講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士を目指す上で必要な運動療法の理論的な解釈、基本的知識、技術、実践力の体得を目指すため、理学療法士として臨床経験のある教員が、病院や施設での実務経験を活かしてそれぞれの専門分野を分担して講義する。 ・渡辺長：理学療法士（総合病院勤務経験） ・五味雅大：理学療法士（総合病院・訪問リハビリテーション勤務経験） ・青柳達也：理学療法士（総合病院・訪問リハビリテーション勤務経験） ・毛利元樹：理学療法士（総合病院勤務）
到達目標	カリキュラムポリシーが掲げる「基本的な理学療法の治療法や障がいに対する専門的な理学療法」を身に着けるため以下の目標を設定する。 【科目特有の知識・技術についての到達目標】 運動療法の理論・方法論を具体的に説明できる。 運動療法の基盤である基本動作の介助、誘導も含めた確かな運動療法基礎技術を培う。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 運動療法学の臨床基礎とその実践に触れ、将来、課題発見力を持つように努める。
計画・内容	1) 運動療法総論と関節可動域技術演習（1）担当教員：青柳、五味、渡辺（理学療法士） 2) 関節可動域技術演習（2）担当教員：青柳、五味、渡辺（理学療法士） 3) 関節可動域技術演習（3）担当教員：青柳、五味、渡辺（理学療法士） 4) 筋力増強技術演習（1）担当教員：青柳、五味、渡辺（理学療法士） 5) 筋力増強技術演習（2）担当教員：青柳、五味、渡辺（理学療法士） 6) 筋力増強技術演習（3）担当教員：青柳、五味、渡辺（理学療法士） 7) 基本動作演習：寝返り、起き上がり、立ちあがり（1）担当教員：五味、青柳、渡辺（理学療法士） 8) 基本動作演習：寝返り、起き上がり、立ちあがり（2）担当教員：五味、青柳、渡辺（理学療法士） 9) 基本動作演習：寝返り、起き上がり、立ちあがり（3）担当教員：五味、青柳、渡辺（理学療法士） 10) 基本動作演習：寝返り、起き上がり、立ちあがり（3）担当教員：五味、渡辺、青柳（理学療法士） 11) バランス障害に対する運動療法（1）担当教員：五味、平賀、青柳（理学療法士） 12) バランス障害に対する運動療法（2）担当教員：五味、平賀、青柳（理学療法士）

2025年度

計画・内容	13) 整形疾患リハビリテーション(1) 担当教員：毛利、五味、青柳、渡辺 (理学療法士) 14) 整形疾患リハビリテーション(2) 担当教員：毛利、五味、青柳、渡辺 (理学療法士) 15) 歩行・応用動作技術演習(1) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 16) 歩行・応用動作技術演習(2) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 17) 運動療法の計画と実践演習(3) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 18) 運動療法の計画と実践演習(4) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 19) 運動器疾患の運動療法(1) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 20) 運動器疾患の運動療法(2) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 21) 中枢神経系疾患の運動療法(1) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 22) 中枢神経系疾患の運動療法(2) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 23) 運動療法学 まとめ 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士)
授業の進め方	1) 各テーマについて演習形式で解説をする。 2) 指定教科書や配布する資料を参考にしながら、講義を進める。他に適宜ビデオや資料などを提示し、講義内容の理解を図る。
能動的な学びの実施	・学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。 ・グループ分けを行い、課題についてディスカッションを行う。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと (各回 1 時間～2 時間) ・教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。(合計 15 時間程度)
教科書・参考書	教科書：対馬栄輝編集 cross link理学療法学テキスト 運動療法学 参考書：石川齊、他編 図解理学療法技術ガイド 文光堂 市橋則明、他編 運動療法学 障害別アプローチの理論と実践 第2版 文光堂 石井慎一郎編 動作分析臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 メジカルビュー社
成績評価方法と基準	筆記試験 (講義の運動療法に関連する範囲から出題) (100%)
課題等に対するフィードバック	・学生からのコメントペーパーの内容をもとに授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	実技授業が主であるため必要に応じて直ちにTシャツ・短パンになれるように準備をしておくこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法 ・課題の総合点 (50%) と期末レポート (50%) 授業で提示する課題の総合点と期末レポートの成績により評価する。

2025年度

科目名称	物理療法学
授業コード	AD161
英語名称	Physical Agents
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	平賀 篤, 安孫子 幸子, 渡邊 郁海
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	物理療法は運動療法とともに理学療法の重要な基本手段の一つである。この講義ではまず、物理学や生理学で得た基礎的事項を再確認しながらその作用を背景にした物理療法がどのように生体に影響を与えるかを解説する。講義内では病院にて様々な領域の症例を経験した教員が、経験と知識を基に物理療法の種類、目的、効果、適応と禁忌、リスク管理などを含め講義し、各種の物理療法を安全かつ効果的に実施することができるよう、機器の操作方法について教示する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床現場にて長年物理療法を活用してきた複数教員が実際の使用方法、リスク管理、最新の知見を網羅して講義する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる理学療法士国家資格に準拠した基礎医学、臨床医学および理学療法の専門的知識の修得を目的に学ぶことを目標とする。 具体的には物理療法の種類、目的、効果、適応と禁忌、リスク管理などを含め理解した後、各種の物理療法を安全かつ効果的に実施することができるよう、機器の操作方法について教授する。授業目標は、臨床の場で状況に応じた適切な物理療法手段を選択し、実施する能力を身につけることである。
計画・内容	1) 物理療法総論・機器管理（平賀：理学療法士） 2) 温熱・寒冷療法：温熱寒冷療法概論，ホットパック，パラフィン浴、伝導冷却法，気化冷却法，対流冷却法，極低温療法（平賀：理学療法士） 3) 光線療法：光線療法概論，赤外線、紫外線、レーザー（平賀：理学療法士） 4) 水治療法、牽引療法：水治療法概論，渦流浴・気泡浴，ハバードタンク，プール浴、牽引療法概論，頸椎・腰椎牽引療法（平賀：理学療法士） 5) 超短波療法，極超短波療法、超音波療法（平賀：理学療法士） 6) 電気刺激療法：電気刺激療法概論，治療的電気刺激療法，経皮的末梢神経電気刺激療法、干渉波電気刺激療法，機能的電気刺激療法、ハイフットバック療法（平賀：理学療法士） 7) 物理療法トピックス 海外の物理療法と最新の動向（我孫子：理学療法士） 8) 物理療法トピックス 物理療法の臨床実践（渡辺：理学療法士） * 上記授業計画は授業進行状況により変更することもある
授業の進め方	教科書中心の講義を主体に行うが、パワーポイントによるスライド、資料なども使用する。 適宜デモンストレーションを行うことがある。 また、物理療法の理解を深めるため、理学療法士国家試験問題などを使用した物理療法演習（確認試験）

2025年度

授業の進め方	を授業時間内に実施するので予習復習を実施される事を期待する。
能動的な学びの実施	各講義内にて物理療法機器を使用する時間を設け、効果的な使用方法や対象者の違いによる設定調整などをグループワークにてディスカッションする。
授業時間外の学修	授業前には該当範囲の教科書部分を確認し、授業後不明点を復習しておく（合計15時間程度）
教科書・参考書	【教科書】：藤野英己責任編集，15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 物理療法学・実習第2版，中山書店，
成績評価方法と基準	・授業中の小テストと提出課題（20％）と期末試験（80％）結果を総合的に判定して、成績評価を行う。
課題等に対するフィードバック	小テストを実施した場合、授業内で適宜解説を行う
オフィスアワー	Campussquareを参照
留意事項	本科目の知識は「物理療法学実習」にて引き続き活用するため、自主的に継続した学習をすることを期待する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomを使用し、オンラインでの講義を展開する。実演予定の物理療法機器については動画配信やデモ動画を作成することで補填する。 授業中の小テストと提出課題（20％）と期末課題（80％）結果を総合的に判定して、成績評価を行う。

2025年度

科目名称	物理療法学実習
授業コード	AD226
英語名称	Physical Agents Practice
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	平賀 篤, 安齋 久美子, 渡辺 長, 渡辺 龍馬, 渡邊 郁海
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	(B) 自己実現能力の養成を行う。 理学療法の基本手段の一つである物理療法の作用を、物理学や生理学で得た基礎的事項を背景として実習形式で自ら体感し学習することを目的とする。病院その他にて様々な領域の症例を経験した教員が、物理療法機器の使用経験に基づき実際に機器を操作を助言しながら演習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床現場にて長年物理療法に携わってきた複数の教員が、それぞれの専門分野での活用経験を駆使して実習指導を行う。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる「理学療法士国家資格に準拠した基礎医学、臨床医学および理学療法の専門的知識の修得」を目的とし、以下を到達目標とする。 【知識、理解ならびに汎用的技能についての到達目標】 1. 物理療法手技を安全かつ効果的に実施できるよう、機器の操作方法について具体的に習得できる。 2. 臨床場面で状況に応じた適切な物理療法手段を選択し、実施する能力を習得できる。
計画・内容	各授業は、学生のグループ毎に被験者&物理療法施行者の相互関係となり実施する。実施に際しては、担当教員の全員が学生間に指示を与えるので、疑問点が生じたら其の都度、個別に指導を求める積極性の発揮を期待する。 また授業は2限連続で実施するものとする。 1・2回) 実習オリエンテーションと実験に必要な知識の整理・次回以降の実習準備(平賀・安齋・渡辺長・渡辺龍: 理学療法士) 次回からの実習を遂行するため、実験計画書の作成やデータ処理の方法について教示したのち実施項目内で使用予定の物理療法機器を実際に操作する。その際に内容(特性・治療適応・治療方法・禁忌事項)を網羅すること。 以下の3・4回～19・20回の9項目を実習課題とし、全9回をかけて全ての課題を実施する。なお各班毎に課題の順番は異なり、詳しい順番は1・2回のオリエンテーションの時に伝達する。 何れの授業も開始時と終了宣言は全体集合の時間を設ける。 何れの実習に際しても各々学生は実習報告書を授業時間内に完成して提出する事を義務とし、報告書の提出が無い者はその回の分は欠席と見なす。 <実施項目順番の例> 3～23回の全ての実習時間を教員の指示の下で学習する(平賀・安齋・渡辺長・渡辺龍・渡邊郁: 理学療法士) 3・4回) 温熱療法(ホットパック, パラフィン浴) 5・6回) 寒冷療法実施(氷冷法, 冷パック, クリッカー) 7・8回) 光線療法実施(赤外線, 紫外線, レーザー 光線療法) 9・10回) 水治療法実施(渦流浴, 気泡浴) 11・12回) 電気刺激療法実施(治療的電気刺激療法EMS, 経皮的末梢神経電気刺激療法TENS)

2025年度

計画・内容	13・14回) 牽引療法実施（頸椎・腰椎牽引療法）、持続的他動運動療法CPM実施 15・16回) 超短波療法、極超短波療法、超音波療法実施 17・18回) マッサージ療法実施 19・20回) バイオフィードバック療法実施 21・22・23回) 各回提出の報告書内容の吟味と報告会の実施、授業のまとめ * 上記授業内項目及び内容は授業進行状況により変更することもある。
授業の進め方	実習を実施するに当たり、教員側で事前にグループを作成、本実習中はその班単位での活動とする。教科書の実習項目を参考とし、事前に実施スケジュールと実施内容を教員側より提示する。詳細については初回授業時に説明する。各機器毎の課題は教科書に提示された内容を踏襲するが班構成員の具体的疑問を解決すべく班単位では課題を追加して検討を加えても良い。実習後半では各班が独自に実験計画を立て、開始までに担当教員と適宜方法について検討する。実習中は必要に応じて適宜デモンストレーションを行い、学生間での実際の物理療法体験と模擬治療を経験する。授業時間内に課題レポートを作成し提出することで授業出席とみなす。
能動的な学びの実施	各回グループワークでの実験授業を基軸とし、実験及び結果の解釈についてディスカッションを行う。
授業時間外の学修	事前に実験機器の予習を実施し、実験シミュレーションを実施する。実験後は結果を整理して復習を行う（合計30時間程度）
教科書・参考書	【教科書】：上杉雅之監修，イラストでわかる物理療法，医歯薬出版株式会社，2019年第1版 ￥4000 1年次科目 物理療法学の教科書と同様
成績評価方法と基準	授業課題と実験事前計画書（30%）、実験報告書内容（40%）、授業後最終レポート（30%）にて総合的に成績評価を行う。期末試験は行わない。
課題等に対するフィードバック	報告書内容は最終回に総括してフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	物理的な刺激（強度・用量・時間・特性）を人体に及ぼす事に対し、常に危機管理を怠らぬ様に注意して実施すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomと配布課題を用い、実験に関するディスカッションを行う。また実験動画などをオンデマンド形式で活用する。 授業課題と実験事前計画書（40%）、実験報告書内容（60%）にて成績評価を行うが、実験ができない場合は代替レポートにて成績評価を行う。

2025年度

科目名称	義肢装具学
授業コード	AD332
英語名称	Prosthetics and Orthotics I
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	青柳 達也, 平賀 篤
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	リハビリテーションとは残存した機能を最大限に活用し、より人間らしい生活を獲得することである。残存した機能を補助するものの一つとして義肢・装具があり、古くからリハビリテーション手段として用いられてきている。そこで本講では、理学療法士として義肢・装具療法に精通し、臨床経験豊富な教員が解剖学・運動学などの基礎知識をもとに理学療法士として必要不可欠である義肢・装具療法の原理、目的および適応疾患について講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士を目指すうえで必要な装具学・義肢学の概要や個々の補装具類の名称や特徴、適応、チェックアウトについて、理学療法士として臨床・教育・研究において経験豊富な教員が講義する。
到達目標	カリキュラム・ポリシーに掲げる「基本的な理学療法の治療法や障がいに対する専門的な理学療法を学ぶ科目」であり、理学療法士として必要不可欠である義肢・装具療法における基本的な知識を身に着けるため、以下を目標とする。 各種装具の名称・種類・用途などの知識を学習する。 各種義肢の名称・種類・用途などの知識を学習する。 義肢・装具の基本的な評価や調整方法について理解する。 義肢・装具が適応となる疾患について理解する。
計画・内容	担当教員：全コマ 青柳達也・平賀篤（理学療法士） 1. 装具学概論 / KAFOのチェックアウト（担当：青柳）
授業の進め方	指定教科書に沿いながら適宜、プリントを配布し、オンデマンド教材による予習、講義、および学修内容により少人数教育を取り入れたアクティブ・ラーニングを展開させ演習なども行う。また、演習では授業内で課題レポートの提出を求める。
能動的な学びの実施	適宜、アクティブ・ラーニングを取り入れ、授業内でグループ単位でのディスカッションなどの演習を行う。また、実際に補装具類を手に取り学ぶ機会を設けるほか、装着体験や取り扱い体験を通じて理学療法

2025年度

能動的な学びの実施	士としての臨床応用に繋がる学修機会を設ける。その他、オンデマンド教材も積極的に活用させ、授業内で確認テストを行うとともにその解説を行い、授業回ごとに理解度の振り返りも行う。
授業時間外の学修	教科書や配布資料と関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（合計 60 時間程度）
教科書・参考書	教科書：豊田 輝・石垣栄司編集、「義肢・装具学 異常とその対応がわかる動画付き（第2版）」、羊土社、2023年
成績評価方法と基準	評価基準は、授業中の小テスト（10％）、レポート課題（10％）、期末試験（80％）
課題等に対するフィードバック	レポート等に関しては、授業内で解説を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	授業には指定教科書を必ず持参すること。また指定されたオンデマンド教材は各自が授業前に必ず視聴し、その予習に努めること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・学修内容に応じて「zoomによるオンライン授業」、「動画配信によるオンデマンド授業」、「それらを組み合わせたハイブリッド授業」を実施する。また、授業内容への理解を深めるための演習課題も組み合わせて実施する。 成績評価方法 ・授業中課題50％と期末課題レポート50％で評価する。

2025年度

科目名称	義肢装具学
授業コード	AD353
英語名称	Prosthetics and Orthotics
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	青柳 達也, 豊田 輝
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	リハビリテーションとは残存した機能を最大限に活用し、より人間らしい生活を獲得することである。残存した機能を補助するものの一つとして義肢・装具があり、古くからリハビリテーション手段として用いられてきている。そこで本講では、理学療法士として義肢療法の経験を持つ教員が臨床能力として必要不可欠である断端管理方法や大腿・下腿義足アライメント調整方法などの理学療法について講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士を目指すうえで必要な義肢学の臨床応用について、理学療法士として臨床・教育・研究経験豊富な教員が実技や演習を交えながら講義する。
到達目標	本科目は、カリキュラム・ポリシーに掲げる「基礎的な理学療法の知識をもとに発展的な理学療法の知識や技能を学ぶ科目」に該当し、理学療法士として義肢療法における専門性の確立を目指した実践、教育、研究の基盤を身につけ、医師や義肢装具士など他領域の人々と連携できる学際的な能力を構築し、将来、専門職として、幅広い社会的活動を通じて社会に貢献できる人材を目指すため、以下を目標とする。 各種義肢の名称・種類・用途などの基本的な知識を身につける。 義肢の基本的な評価や調整方法などの基本的な知識を身につける。 対象者に応じた義肢療法に関する基本的な理学療法アプローチについて理解する。
計画・内容	担当教員：青柳達也（理学療法士）、豊田輝（理学療法士） 1. 膝継手の機能、膝義足ソケット （担当：青柳）
授業の進め方	指定教科書に沿いながら適宜、プリントを配布し、オンデマンド教材による予習、講義、および学修内容により少人数教育を取り入れたアクティブ・ラーニングを展開させ演習なども行う。また、演習では授業内で課題レポートの提出を求める。
能動的な学びの実施	適宜、アクティブ・ラーニングを取り入れ、授業内でグループ単位でのディスカッションなどの演習を行う。また、実際に義足を手に取り学ぶ機会を設けるほか、模擬義足装着体験や取り扱い体験を通じて理学療法士としての臨床応用に繋がる学修機会を設ける。その他、オンデマンド教材も積極的に活用させ、授業内で確認テストを行うとともにその解説を行い、授業回ごとに理解度の振り返りを行う。
授業時間外の学修	授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと（各回 1 時間～2 時間）
教科書・参考書	教科書：豊田 輝・石垣栄司編集、「義肢・装具学 異常とその対応がわかる動画付き（第2版）」、羊土社、2023年

2025年度

成績評価方法と基準	評価基準は、小テスト・レポート課題（10％）と到達目標に記載した内容の理解度による期末試験（90％）
課題等に対するフィードバック	レポートを実施した場合は、授業内で解説を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	授業には指定教科書を必ず持参すること。また、オンデマンド教材は各自が授業前に必ず視聴し予習に努めること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・学修内容に応じて「zoomによるオンライン授業」、「動画配信によるオンデマンド授業」、「それらを組み合わせたハイブリッド授業」を実施する。また、授業内容への理解を深めるための演習課題も組み合わせて実施する。 成績評価方法 ・授業中課題50％と期末課題レポート50％で評価する。

2025年度

科目名称	日常生活活動学
授業コード	AD227
英語名称	Activities of Daily Living
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	西條 富美代, 五味 雅大
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	理学療法士を目指すうえで必要な日常生活活動学（ADL）の概念と具体的内容を理学療法士として臨床経験のある教員の講義および実技を通して学習する。また、障がい者のADLの評価方法について学習し、ADLの評価や指導ができるようにする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士を目指すうえで必要な日常生活活動の概念、評価方法、指導方法などについて、理学療法士として臨床経験のある教員が講義を行う。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる基本的な理学療法を实践できる知識と技術を身につけることを目標とする。 1. ADLの基礎的知識を習得し、ADL技術を身につける。 2. 基本動作の指導方法、介助方法を身に着ける 3. ADL関連の評価ができ、患者・家族指導ができるようにする。
計画・内容	1) 日常生活活動の概念・意義・範囲 担当：西條・五味（理学療法士） 2) ADL評価表による評価について 担当：西條・五味（理学療法士） 3) ADL工程における評価について 担当：西條・五味（理学療法士） 4) 基本動作（起居動作）の評価・指導 担当：西條・五味（理学療法士） 5) 基本動作（移動動作）の評価・指導 担当：西條・五味（理学療法士） 6) セルフケア動作の評価・指導 担当：西條・五味（理学療法士） 7) 日常生活関連活動の評価・指導 担当：西條・五味（理学療法士） 8) 疾患における日常生活活動の考え方 担当：西條・五味（理学療法士）
授業の進め方	・講義・演習を中心に授業を進める。 ・演習やグループワークでの活動がありますが、積極的な参加意欲を持って臨んで下さい。
能動的な学びの実施	・アクティブラーニングを取り入れ、実習や演習を適宜行う。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと（各回1時間～2時間） ・教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（合計20時間程度）
教科書・参考書	教科書：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト ADL・実習 編集者：石川 朗 出版社：中山書店
成績評価方法と基準	定期試験（60％）+レポート（40％）
課題等に対するフィードバック	提出課題については、授業内でフィードバックを行い、コメントを付与して返却する。

2025年度

オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	講義内で実技を行うこともあるため、実技可能な服装で出席のこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・Zoomによるオンライン授業と課題学習を組み合わせで実施する。 成績評価方法 ・授業ごとの課題50%+総合課題50%

2025年度

科目名称	日常生活活動学
授業コード	AD276
英語名称	Activities of Daily Living
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	西條 富美代
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	(B)自己実現能力を養成する。 理学療法士を目指すうえで必要な日常生活活動学(ADL)の概念と具体的内容を理学療法士として臨床経験のある教員の講義および実技を通して学習する。疾患に対するADLの評価方法について学習し、ADLの評価や指導ができるようにする。福祉用具の使用、生活環境を含めてADLを考えることを学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士を目指すうえで必要な日常生活活動の概念、評価方法、指導方法などについて、理学療法士として臨床経験のある教員が講義を行う。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる基本的な理学療法を实践できる知識と技術を身につけることを目標とする。 ・疾患別ADLの基礎的知識を習得し、ADL技術を身につける。 ・対象者の状態に合った指導方法、介助方法を身に着ける ・ADL関連の評価ができ、環境整備をふまえて患者・家族指導ができるようにする。 ・対象者の状態に合わせて評価、指導をすることを学び、臨床にでてから状況に合わせて実施するための考え方を学ぶ。
計画・内容	1) 支援機器・補装具・自助具 担当：西條（理学療法士） 2) 住環境整備 担当：西條（理学療法士） 3) 日常生活活動の介助とADL指導 福祉用具を用いて(1)起居動作 担当：西條（理学療法士） 4) 日常生活活動の介助とADL指導 福祉用具を用いて(2)移動動作 担当：西條（理学療法士） 5) 日常生活活動の介助とADL指導 福祉用具を用いて(3)セルフケア 担当：西條（理学療法士） 6) 疾患の評価・ADL指導 担当：西條（理学療法士） 7) 高齢者の評価・ADL指導 担当：西條（理学療法士） 8) 病院と在宅による評価とADL指導の違い 担当：西條（理学療法士）
授業の進め方	・講義・演習を中心に授業を進める。 ・演習やグループワークでの活動がありますが、積極的な参加意欲を持って臨んで下さい。
能動的な学びの実施	・アクティブラーニングを取り入れ、実習や演習を適宜行う。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと（各回1時間～2時間） ・教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（合計20時間程度）
教科書・参考書	適宜、参考資料を提示
成績評価方法と基準	授業ごとの課題レポートの総合評価（100%）

2025年度

課題等に対するフィードバック	提出課題については、授業内でフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	講義内で実技を行うこともあるため、実技可能な服装で出席のこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・Zoomによるオンライン授業と課題学習を組み合わせで実施する。 - Zoom内でも実技を行うことがあるため、できるだけ動ける環境を準備すること 成績評価方法 授業ごとの課題レポートの総合評価

2025年度

科目名称	運動器障害系理学療法学
授業コード	AD334
英語名称	Physical Therapy for Musculoskeletal Disorders
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	相原 正博, 山村 俊一, 渡邊 修司
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目は、2年次に学習した運動器障害の基礎的な知識を基に、臨床場면을想定した評価及び治療介入方法の理解を深める。また、解剖学・運動学・生理学の知識を活用し、運動器障害の理解を図り、臨床で実践出来る実技を体験する。 本講義を通じて、カリキュラムポリシーに掲げる、運動器障害の専門的な理学療法に必要な実践活用できる知識及び実技を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	運動器障害分野の理学療法に携わった教員(10年以上)及び、現在も臨床現場で運動器障害の分野の理学療法に関わっている非常勤講師による最新の知見を講義する。また、臨床現場で実施している評価・治療技術を教示する。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる、基本的な理学療法を実践できる知識と技術を身につけるために、以下の目標を立てる。 【科目特有の知識・技術についての到達目標】 1. 運動器障害に対する基本的な理学療法の基礎知識（疾患、身体構造、機能解剖）及び評価・治療介入方法を理解する。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 2. 科学的根拠に基づいた知識を深め、実践活用できるよう、応用力を持つ。
計画・内容	1)変形性股関節症の評価・理学療法 担当教員：相原正博（理学療法士） 2)変形性股関節症の評価・理学療法 担当教員：相原正博・渡邊修司（理学療法士） 3)変形性膝関節症の評価・理学療法 担当教員：相原正博（理学療法士） 4)変形性膝関節症の評価・理学療法 担当教員：相原正博・渡邊修司（理学療法士） 5)脊椎疾患の評価・理学療法 担当教員：相原正博（理学療法士） 6)脊椎疾患の評価・理学療法 担当教員：相原正博・渡邊修司（理学療法士） 7)骨折の評価・理学療法 担当教員：渡邊修司（理学療法士） 8)骨折の評価・理学療法 担当教員：渡邊修司・相原正博（理学療法士） 9)肩関節周囲炎の評価・理学療法 担当教員：渡邊修司（理学療法士） 10)肩関節周囲炎の評価・理学療法 担当教員：渡邊修司・相原正博（理学療法士） 11)足部疾患の評価・理学療法 担当教員：渡邊修司（理学療法士）

2025年度

計画・内容	12)足部疾患の評価・理学療法 担当教員：渡邊修司・相原正博（理学療法士） 13)運動器障害の臨床応用 担当教員：山村俊一（理学療法士） 14)運動器障害の臨床応用 担当教員：山村俊一（理学療法士） 15)まとめ 担当教員：相原正博・渡邊修司（理学療法士）
授業の進め方	教科書を中心に配布する資料を参考にしながら、講義を進める。 他に適宜ビデオや資料などを提示する。
能動的な学びの実施	・確認テストとその解説を行い、授業の理解向上を図る。 ・学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	・各分野の範囲を教科書を用いて予習すること(1時間程度)。 ・授業後に教科書及び配布資料を用いて復習を行うこと(1時間程度)。
教科書・参考書	■教科書： Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学（編集 加藤浩、MEDICAL VIEW）
成績評価方法と基準	成績評価は期末試験(100%)で行う。
課題等に対するフィードバック	小テストや課題レポートの返却時にコメントを付加する。
オフィスアワー	Campusquare参照
留意事項	・やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないこと。 ・解剖学、運動学、生理学の基礎的知識が必要であるため、復習をしておくこと。"
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法 ・授業中課題50%と期末レポート50%で評価する。"

2025年度

科目名称	神経障害系理学療法学
授業コード	AD278
英語名称	Physical Therapy in Neurological Disorders I
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	平賀 篤, 大西 健太
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	(B) 自己実現能力の養成を目的とする。 神経障害系理学療法に必要な知識及び技能を習得する。本科目では臨床での実施頻度の高い脳血管障害の病態的な背景を把握し、それにより起こりえる障害像を理解する。また脳血管障害に即した理学療法の評価と治療理論、技術を学ぶ。臨床にて長年中枢神経疾患のリハビリテーションに従事してきた教員が、その経験を活かし教示する。また最新の治療技術なども随時取り入れる。
科目に関連する実務経験と授業への活用	脳血管障害に関する理学療法臨床現場に10年間従事した教員に加え、現在も山梨県内地域にて脳血管障害分野の地域リハビリテーションに関わる非常勤講師による最新の知見を講義する。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「理学療法士国家資格に準拠した基礎医学、臨床医学および理学療法の専門的知識を修得している」ならびに「基本的な理学療法を実践できる知識と技術を身につけている。」を達成するため具体的目標を以下に定める。 【科目特有の知識・技術についての到達目標】 1. 脳血管障害に起因する機能障害が理解できる。 2. 障害の多様性を理解し、適切な評価法の選択と実行ができる。 3. 脳血管障害に対する理学療法の知識および技術に関する基本が習得できる。 4. 上記評価から障害の個別性を導き出し、それを捉えた上で適切な理学療法内容を展開できる。
計画・内容	1) 脳血管障害の基礎知識 脳・中枢神経系の構造と機能局在、画像の見方と医学的管理 担当：平賀（理学療法士） 2) 脳血管障害の基礎知識 脳血管障害の症状特性 1 担当：平賀（理学療法士） 3) 脳血管障害の基礎知識 脳血管障害の症状特性 2 担当：平賀（理学療法士） 4) 脳血管障害の基礎知識 脳血管障害の症状特性 3 担当：平賀（理学療法士） 5) 脳血管障害の回復過程と時期による評価・治療 1 担当：平賀（理学療法士） 6) 脳血管障害の回復過程と時期による評価・治療 2 担当：平賀（理学療法士） 7) 脳血管障害の回復過程と時期による評価・治療 3 担当：平賀（理学療法士） 8) 脳血管障害理学療法の実践と治療技術 担当：大西、平賀（理学療法士） 必要に応じてグループワークや授業時課題なども設定する。詳細については講義時に伝える。
授業の進め方	各テーマについて講義形式で行う。 授業内で小試験やレポートを課す場合もある。

2025年度

授業の進め方	評価方法、治療手技などが各テーマ内にある場合は適宜実技や演習を行う。
能動的な学びの実施	基礎知識を中心とした講義を前半に行い、後半ではその知識を基盤とした複数回のグループワークと授業内実技演習を行う。
授業時間外の学修	授業範囲部分について事前に教科書を読み、不明点をまとめておく。また授業後には内容をまとめておくこと。（合計15時間程度）
教科書・参考書	【教科書】山口智史；最新理学療法学講座 中枢神経系理学療法学，医歯薬出版株式会社 【参考書】酒向正春；コツさえわかればあなたも読める リハに役立つ脳画像，メジカルビュー 吉尾雅春；症例で学ぶ脳卒中のリハ戦略，医学書院
成績評価方法と基準	授業内小試験およびグループワークと課題（20％）、また期末試験（80％）の成績によって総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	・学生発表や提出課題は適宜授業内でフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	実技、実習は適宜行うので動きやすい服装で参加すること。 教科書、参考書及び授業内資料を用い、適宜予習復習を行うこと。 本科目は3年時に開講される「神経障害系理学療法学」での科目内容において必須となる知識のため、十分に予習復習をすること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業はZoomを用いたオンライン講義を中心に実施する。グループワークについてもZoom内の小グループ機能を用いて実施する。 授業内小試験およびグループワーク評点と授業内課題（50％）、また授業の最後に提示するレポート（50％）の成績によって総合的に評価する。

2025年度

科目名称	内部障害系理学療法学
授業コード	AD336
英語名称	Physical Therapy in Internal Disorders
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	新永 拓也, 佐野 徳雄, 山田 洋二, 新井 則善, 渡邊 亮, 角田 健
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	解剖学・運動学・生理学などの基礎医学および内部障害系理学療法学の知識を基に内部障害疾患（呼吸器疾患, 循環器疾患, 代謝性疾患）に対する理学療法評価の理論と技術を修得することを目的とする。 内部障害軽理学療法における代表的な疾患（肺炎・COPD・間質性肺炎・虚血性心疾患・心不全・大血管疾患・糖尿病・慢性腎不全・人工透析など）の特性と病態を理解した上で, 疾患と病態に応じた理学療法評価や各検査測定とその解釈を学修する。また, 代表的な内部障害の症例を通して, 問題点抽出および理学療法プログラムの立案ができる力を養う。また, 非常勤講師を招き, 現場での内部障害の理学療法についても学び, 知識を深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	内部障害を有する患者や利用者に対して, 各種症状の緩和方法や身体機能の維持と改善を目標に理学療法士として従事していた経験を有する教員が具体的な知識と技術を指導する。 学生は自らが内部障害者になった状況を想像しながら, 一般検査および理学療法評価から問題点を抽出し, 具体的なプログラム立案へと思考を進める経験を得る事が出来る。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる「理学療法士国家資格に準拠する専基礎医学、臨床医学および理学療法の専門的知識を修得する」ことを目標とする。 また、カリキュラムポリシーに掲げる「基本的な理学療法の治療法や障がいに対する専門的な理学療法を学ぶ科目を配置する。」ことを目的に、内部障害系理学療法学について理解する。 【科目特有の知識・技術についての到達目標】 内部障害を有する人への理解と理学療法手技を習得する。疾患毎の理学療法に関する基礎理論について、深く学習し、理解・説明し、実践できるようになる。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 内部障害を有する人への具体的な対応策を学習する。疾患毎の理学療法学の基礎に触れ、将来の社会人としての実効性を持つようになる。
計画・内容	1) 循環器・呼吸器系疾患に対する理学療法評価：視診・触診・打診・聴診の紹介と実技, 演習（担当：佐野, 山田, 新永, 理学療法士） 予習：循環器・呼吸器系のフィジカルアセスメントについて確認する（1時間程度） 復習：教科書の説明部分を確認すること（1時間程度） 2) 循環器・呼吸器系疾患に対する理学療法評価：視診・触診・打診・聴診の紹介と実技, 演習（担当：佐野, 山田, 新永, 理学療法士） 予習：循環器・呼吸器系のフィジカルアセスメントについて確認する（1時間程度） 復習：教科書の説明部分を確認すること（1時間程度） 3) 循環器・呼吸器系疾患に対する理学療法評価：運動耐容能の評価（6分間歩行試験、シャトルウォーキングテスト）と実技, 演習、運動負荷試験の結果解釈（担当：佐野, 山田, 新永, 理学療法士） 予習：運動耐容能の評価について確認する（1時間程度） 復習：教科書の説明部分を確認すること（1時間程度）

計画・内容	4) 循環器・呼吸器系疾患に対する理学療法評価 : 運動耐容能の評価 (6分間歩行試験、シャトルウォーキングテスト) と実技、演習、運動負荷試験の結果解釈 (担当: 佐野, 山田, 新永, 理学療法士) 予習: 運動耐容能の評価について確認する (1時間程度) 復習: 教科書の説明部分を確認すること (1時間程度)
	5) 代謝疾患に対する理学療法評価: 腱反射, ABI, 振動覚, 足底感覚, 足趾足部ROM, バランス検査など (担当: 佐野, 山田, 新永, 理学療法士) 予習: 代謝疾患の評価について確認する (1時間程度) 復習: 教科書の説明部分を確認すること (1時間程度)
	6) 呼吸器系疾患に対する理学療法 : 呼吸介助・体位排痰法の理学療法手技、吸引の紹介と実技、演習 (担当: 佐野, 山田, 新永, 理学療法士) 予習: 呼吸器系疾患の理学療法手技、吸引について確認する (1時間程度) 復習: 教科書の説明部分を確認すること (1時間程度)
	7) 呼吸器系疾患に対する理学療法 : 呼吸介助・体位排痰法の理学療法手技、吸引の紹介と実技、演習 (担当: 佐野, 山田, 新永, 理学療法士) 予習: 呼吸器系疾患の理学療法手技、吸引について確認する (1時間程度) 復習: 教科書の説明部分を確認すること (1時間程度)
	8) 内部障害系疾患に対する理学療法: 有酸素運動・レジスタンストレーニング (担当: 佐野, 山田, 新永, 理学療法士) 予習: 内部障害系疾患の理学療法 (有酸素運動とレジスタンストレーニング) について確認する 復習: 教科書の説明部分を確認すること (1時間程度)
	9) がんの理学療法: 病期別 (予防、回復、維持、緩和) の理学療法: がん患者に対する理学療法 (担当: 山田, 理学療法士) 予習: がんの理学療法について確認する (1時間程度) 復習: 教科書の説明部分を確認すること (1時間程度)
	10) 循環器・呼吸器系疾患に対する理学療法評価 : 心電図所見・画像所見の見方 (担当: 佐野, 山田, 新永, 理学療法士) 予習: 心電図所見、内部障害系疾患の画像所見の見方について確認する (1時間程度)

2025年度

計画・内容	
授業の進め方	講義と実習形式で行う。映像資料や配布資料にて参考書の内容を分かりやすく説明する。 各種の機能障害に対し具体的な検査方法を指導し、講義中に随時、受講生同士での理学療法士对患者関係を設定した評価手技を実施しなくてはならない場合もある。 受講生は実習衣着用等、適宜対応が出来るように講義の進行に注意を傾けて頂きたい。
能動的な学びの実施	授業理解を深める為に必要に応じてを行う。アクティブラーニングを取り入れ実習や演習を適宜行う。
授業時間外の学修	授業中に提示された内容を授業時間外に教科書内で確認し、毎回の授業毎に復習しておくこと（毎回1時間程度）。実技練習は授業時間外に適宜実施すること。
教科書・参考書	￥教科書； 1）石川朗編集，内部障害理学療法学，循環・代謝，中山書店，2017 第2版 2）石川朗編集，内部障害理学療法学，呼吸，中山書店，2022 第3版 3）石川朗編集，リハビリテーションテキスト，がんのリハビリテーション，中山書店，2020 第1版 参考書； 1）解良武士・他編集，Closslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学，メジカルビュー，2019 2）松尾善美，内部障害理学療法学，羊土社，2016，第1版 3）高橋仁美・他編集，動画でわかる呼吸リハビリテーション，中山書店，2016 第4版 4）吉尾雅春，他編集，標準理学療法学「内部障害理学療法学」，医学書院，2013，第1版 5）石川朗編集，内部障害理学療法学，循環・代謝，中山書店，2012 第1版 6）大島一太，これならわかる！心電図の読み方-モニターから12誘導まで-（ナースのための基礎BOOK） 7）長尾 大志，レジデントのためのやさしい胸部画像教室[ベストティーチャーに教わる胸部X線の読み方考え方] 改訂第2
成績評価方法と基準	授業内課題（20％）、期末試験（80％）の結果を総合的に判定して、成績評価を行う。
課題等に対するフィードバック	課題については返却して授業内で適宜、解説・フィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	質問等は随時メールにて対応可能である。 学籍番号と氏名を明記してE-mailで 担当教員宛に発信する事。 授業では、受講生自身の積極的な参加や働きかけを期待する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 ・必要に応じて授業動画配信によるオンデマンド授業とする。 成績評価方法 ・授業中課題50％と期末レポート50％で評価する。

2025年度

科目名称	高齢者理学療法学
授業コード	AD354
英語名称	Geriatric Physical therapy
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	渡辺 長
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	この授業では生涯発達の視点から老年期についての理解を深めると同時に、加齢障害の一般原理および特徴を座学と演習を通じて学び、高齢者の理学療法を考え実践できる知識と能力を養う。また本科目は加齢障害の理学療法に関して豊富な実務経験を有す教員による実践科目として、高齢者に対する理学療法の実施に欠かせない知識、技術、視点をICFを用いながら包摂的に理解できるように進めていく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	在宅における訪問リハや高齢者施設など介護保険分野における理学療法に従事した経験を持つ教員（理学療法士）が、その経験を活かして、高齢者を取り巻く社会保障の国際比較から高齢者に特徴的な慢性疾患の身体評価及び理学療法、在宅復帰に向けた環境整備の在り方などについて実例を交えて分かりやすく講義する。 ・渡辺長：理学療法士（総合病院勤務経験）
到達目標	カリキュラムポリシーにある「基礎的な理学療法の知識をもとに発展的な理学療法の知識や技能を習得する」を実現するため以下の到達目標を設定した。 【科目特有の知識・技術についての到達目標】 1) 加齢障害の特性および障害の理解に基づき、高齢者の理学療法に関する適切な評価とプログラムの説明ができる。 2) ICFを用いて対象者の取り巻く状況を説明できる。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 3) 加齢障害に対する理学療法士の役割や介入に際するリスクを認識し、実践できる。
計画・内容	1) オリエンテーション総論 脳血管障害のリハビリテーション(高次脳機能障害/認知症) 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 2) 脳血管障害患者の起居動作介助 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 3) 高齢者の身体特性 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 4) 褥瘡予防のポジショニング/ラップ療法紹介 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 5) 高齢者の転倒と骨折

2025年度

計画・内容	予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 6) 高齢者の身体機能/排出障害 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 7) 高齢者のバランス評価と訓練 予習：該当項目について発表準備をする 復習：講義内容をまとめる 8) 高齢者のリハビリテーション まとめ 予習：発表内容についてまとめておく 復習：講義内容をまとめる
授業の進め方	この講義では高齢者の理学療法を実践していくうえで必要となる知識や技術を学んでいく。また加齢現象について考察するグループワークと発表に取り組む。
能動的な学びの実施	・講義を対話形式で行い学生に興味・関心を持たせる。 ・理論と実践をバランスよく実施し、理論の後に演習を実施する。 ・小テストでは学生同士で調べ学び合う機会をつくり知識の定着を図る。
授業時間外の学修	予習：各回のテーマについて事前に教科書や信頼のおけるウェブサイトを目を通しておくこと。(1時間) 復習：学習した内容について知識の整理を図ること。(1時間) 疑問点などがあれば担当教員に相談すること。 理学療法の対象疾患の多くは加齢障害に基づくものなので、解剖学・生理学・運動学との繋がりを意識しながら学習を進めること。
教科書・参考書	・配布資料
成績評価方法と基準	各回の課題の提出率・内容(20%)、発表・レポート課題(80%)により評価する。
課題等に対するフィードバック	提出したレポートに対してフィードバックを行う。また授業に対するフィードバックを適宜行い、講義内容に盛り込んでいく。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	各回の復習を良く行うこと
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 オンライン（ZOOM）にて実施する。一方向性とならないよう学生との対話やディスカッション、グループセッションを利用したインタラクションを積極的に取り入れる。 成績評価方法と基準 対面と同様、各回の課題の提出率・内容(20%)、発表・レポート課題(80%)により評価する。

2025年度

科目名称	小児理学療法学
授業コード	AD337
英語名称	Pediatric physical therapy
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	安齋 久美子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	小児の正常発達の解剖学的・生理学的・心理学的特性について理解し、発達障害を生ずる原因と発達障害の成り立ちについて理解する。その上で小児の障害に対する整形外科的および神経生理学的な各種理学療法について、評価、理学療法プログラムの立案と具体的手法を理解する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	小児の専門病院にて臨床経験のある教員が、治療の実際と家族の支援を含めて教授する。
到達目標	カリキュラムポリシーに掲げる「基本的な理学療法の治療法や障がいに対する専門的な理学療法を学ぶ」ことを目的に、小児分野の障害と治療を理解する。 具体的には 脳性麻痺の発達にかかる理学療法が説明できる。 次の疾患についての発達にかかる理学療法について説明できる：二分脊椎、運動発達遅延、染色体異常、骨系統疾患、発達性協調運動障害、先天性神経筋疾患、早産児、重症心身障害児、中途障害児。
計画・内容	1) 総論、発達理論と乳児の定型運動発達(1か月～8か月) 予習：授業前に教科書の該当部分を読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書やプリントを関連付けて自分の講義ノートを整理事ること(2時間) 2) 乳児の定型運動発達発達(9か月～12か月)とスクリーニング検査 予習：授業前に教科書の該当部分を読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書やプリントを関連付けて自分の講義ノートを整理事ること(2時間) 3) 姿勢反射と運動の発達 予習：授業前に教科書の該当部分を読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書やプリントを関連付けて自分の講義ノートを整理事ること(2時間) 4) 脳性麻痺(1)(定義・タイプ別分類・特徴) 予習：授業前に教科書の該当部分を読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書やプリントを関連付けて自分の講義ノートを整理事ること(2時間) 5) 脳性麻痺(2)(理学療法プログラム) 予習：授業前に教科書の該当部分を読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書やプリントを関連付けて自分の講義ノートを整理事ること(2時間) 6) 骨系統疾患(ベルテスほか)、二分脊椎 予習：授業前に教科書の該当部分を読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書やプリントを関連付けて自分の講義ノートを整理事ること(2時間) 7) 神経筋疾患(筋ジストロフィー) 予習：授業前に教科書の該当部分を読み、不明な点をまとめておくこと(1時間) 復習：教科書やプリントを関連付けて自分の講義ノートを整理事ること(2時間)

2025年度

計画・内容	8) 染色体異常（ダウン症ほか）、ハイリスク児、重症心身障害児 予習：授業前に教科書の該当部分を読み、不明な点をまとめておくこと（1時間） 復習：教科書やプリントを関連付けて自分の講義ノートを整理すること（2時間）
授業の進め方	基本的に講義中心で進める。
能動的な学びの実施	配布資料がワークシート形式になっており、講義を聞きながら資料を完成させていく。
授業時間外の学修	予習（1時間）について：各回とも予習は指定教科書の該当部分を読みノートにまとめる 復習（1時間）について：講義内容を予習ノートに上書きし、重要箇所を整理する
教科書・参考書	教科書：平賀 篤ほか編 「PT・OTビジュアルテキスト 小児理学療法学」 羊土社 参考書： 細田多穂監修 「シンブル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト 改定第三版」 南江堂 Nancie R. Finnie編著「脳性まひ児の家庭療育」医歯薬出版
成績評価方法と基準	定期試験により評価する（100%）
課題等に対するフィードバック	授業内で実施する小テストを通して、重要なポイントについて整理する。自分の知識を確認し、知識を定着させることに役立つ。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業を行う。 定期試験により評価する（100%）

2025年度

科目名称	地域理学療法学
授業コード	AD355
英語名称	Community-based Comprehensive Physical Therapy
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	五味 雅大, 宮下 良美, 村松 和樹, 深沢 太郎, 渡辺 長, 秋山 雅美, 芝 伸悟
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	(A)自己実現能力の養成を行う。 地域における臨床経験のある理学療法および現在地域の現場で臨床に携わっている他職種講義を通して、地域理学療法の活動内容を学び、他職種の役割、理学療法の役割を理解する。また、地域で生活するために必要な法制度を学ぶ。 多くのスタッフの中における理学療法士の視点や目標を学び、理解する。 担当する教員は、現在も地域の臨床現場にかかわっている理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、ケアマネジャー（CM）で講義を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・理学療法士を目指すうえで必要な地域理学療法における概念、評価の仕方、関連法規、考え方などを、理学療法士として臨床経験のある教員が分担して講義する。 ・現在、地域において活躍している多職種の外部講師による講義を通して、地域理学療法の分野についての幅広い視点と基礎的な知識、各専門職による視点などについて学ぶ。 深沢太郎：作業療法士（居宅介護支援事業所経験） 村松和樹：理学療法士（介護老人保健施設所、クリニック経験） 秋山雅美：ケアマネジャー、保育士（共生型デイサービス経験） 芝伸悟：理学療法士（介護老人保健施設経験） 西條富美代：理学療法士（総合病院、介護老人保健施設、訪問理学療法経験） 渡辺長：理学療法士（総合病院経験） 宮下良美：理学療法士（総合病院、クリニック、訪問理学療法経験） 五味雅大：理学療法士（総合病院、クリニック、訪問理学療法経験）
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる、他職種と連携し問題を解決するための基礎知識を身につける、基本的な理学療法を実践できる知識と技術を身につけることを目標とする。 【科目特有の知識・技術についての到達目標】 1.地域における理学療法の内容を理解する。 2.地域理学療法をおこなうにあたり必要な法制度を知る。 3.地域理学療法における視点を理解する。 4.多職種との連携、理学療法の役割を理解する。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 1.専門職としての理学療法の役割を理解するとともに、地域で生活する人に対する視点をもつ。
計画・内容	1)地域とは・対象者のとらえ方 担当教員：五味・西條（PT） 2)制度と関連法規・社会資源 担当教員：五味・西條（PT） 3)地域での連携・他職種との協働 担当教員：五味・西條（PT） 4)地域理学療法の展開（１）施設における理学療法 担当教員：五味・西條（PT） 5)地域理学療法の展開（２）在宅における理学療法 担当教員：五味・西條（PT） 6)リスクマネジメント 担当教員：五味・西條（PT） 7)健康状態の評価・健康増進 担当教員：五味・西條（PT） 8)家族との関係作り 担当教員：五味・西條（PT） 9)事例演習 担当教員：五味・西條（PT）

2025年度

計画・内容	10)世界における地域理学療法 担当教員：渡辺（PT） 11)高齢者福祉における理学療法士の視点 担当教員：芝（PT） 12)連携によるチームワーク（１） 担当教員：秋山（CM） 13)連携によるチームワーク（２） 担当教員：深沢（OT） 14)地域における理学療法士の視点 担当教員：村松（PT） 15)終末期における理学療法士の視点 担当教員：宮下（PT）
授業の進め方	・教科書、参考資料を用いた講義形式で授業を行う。 ・演習として、グループディスカッションや事例検討を必要に応じて実施する。
能動的な学びの実施	・グループディスカッションを含め、アクティブラーニングを取り入れ、演習を適宜行う。
授業時間外の学修	・授業前に予め提示資料や項目内容を調べ、不明な点をまとめておくこと（各回1時間程度） ・配布資料と関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（合計35時間程度） ・グループで検討した内容をまとめる（合計10時間程度）
教科書・参考書	教科書：牧迫飛雄馬・吉松竜貴（編集），「最新理学療法学講座 地域理学療法学」医歯薬出版株式会社，2022 参考書：（監修）細田多穂（編集）備酒伸彦 樋口由美 対馬栄輝，「シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト 改定第4版」南江堂，2023
成績評価方法と基準	レポート課題(10%)＋定期試験(90%)によって評価。
課題等に対するフィードバック	・課題にて作成したレポートは、授業内でフィードバックを行ったり、グループ討議の資料として使用する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	複数教員および非常勤講師による授業となるため、項目の順番が前後する場合がある。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・Zoomによるオンライン授業と課題学習を組み合わせる。 ・授業動画配信によるオンデマンド授業となる場合がある。 成績評価方法 ・授業時の課題 50% ・総合課題 50%

2025年度

科目名称	生活環境学
授業コード	AD342
英語名称	Theories on Living Environment
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	西條 富美代, 五味 雅大
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	理学療法士を目指すうえで必要な生活環境について理解を深める。 人が生活していく上での環境との関わりを理解し、より良い生活を送る上での、環境整備の考え方、方法について学ぶため、理学療法士としての臨床経験のある教員および多くの住宅改修経験のある建築士が講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士を目指すうえで必要な生活環境についての評価の仕方、関連法規、考え方などを、理学療法士として臨床経験のある教員が分担して講義する。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる基本的な理学療法を实践できる知識と技術を身につけることを目標とする。 1. 生活環境とヒトの生活の関わりについて考えられる。 2. より良い生活を送るための生活環境について考えられる。
計画・内容	1) 生活環境学とは 担当：西條（理学療法士） 2) 生活環境の基礎（人的・物理的・制度的） 担当：西條（理学療法士） 3) ユニバーサルデザインと福祉用具 担当：西條（理学療法士） 4) 生活環境の日常安全性 担当：西條（理学療法士） 5) 在宅ケアとハウスアダプテーション 担当：五味・西條（理学療法士） 6) 施設環境と療養環境 担当：五味（理学療法士） 7) 生活環境評価と対応 生活環境評価 事例検討 担当：西條・五味（理学療法士） 8) 生活環境評価と対応 生活環境整備 事例検討 担当：西條・五味（理学療法士）
授業の進め方	・教科書、パワーポイントを使用した授業形式で、他の資料など適宜活用する。 ・グループ分けを行い、課題についてディスカッションを適宜行う。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングを取り入れ、演習を適宜行う。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと（各回1時間程度） ・教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（合計35時間程度） ・グループで検討した内容をまとめる（合計10時間程度）

2025年度

授業時間外の学修	
教科書・参考書	<教科書> 徳田良英監修：「生活環境論入門 第3版」 DTP出版 <参考書> 野村歡・他：「OT・PTのための住環境整備論 第2版」 三輪書店
成績評価方法と基準	授業で提示する課題の総合点(100点)とする。
課題等に対するフィードバック	・作成したレポートを授業内で、授業内でフィードバックを行ったり、グループ討議の資料として使用する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・Zoomによるオンライン授業と課題学習を組み合わせる。 成績評価方法 ・授業で提示する課題の総合点(100点)とする。

2025年度

科目名称	介護予防学
授業コード	AD356
英語名称	Preventive care
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	渡辺 長, 新永 拓也
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	近年の人口の高齢化とそれに伴う社会保障費の増大によって、介護予防の重要性が高まっている。介護予防の在り方については地域住民や他職種間で情報共有しながら、あるべき支援を共に考えていく姿勢が欠かせない。そのため講義では理学療法士の活動に限らず、他職種が果たす役割も交えながら、豊富な実務経験を持つ教員と実際の臨床現場で働く理学療法士が介護予防事例の介入と効果について講義する。また進め方として学生各々が自らの考えを発展させ応用できるようにアクティブラーニングの要素を積極的に取り入れていく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目は国内外の総合病院や研究機関で介護予防分野に関するアプローチに従事してきた教員（理学療法士）が、その経験を活かして、地域における介護予防の重要性から効果まで様々な具体的実例を交えながら説明する。また地域包括ケアを中心とした他職種連携を念頭に今後求められる理学療法士像について講義する。 ・ 渡辺長：理学療法士（総合病院勤務経験） ・ 新永拓也：理学療法士（総合病院勤務経験）
到達目標	ディプロマポリシーにある「豊かな教養と倫理観」を獲得するため以下の到達目標を設定した。 【科目特有の知識・技術についての到達目標】 ・ 「高齢化」にまつわる社会や経済の変化について理解する ・ 世界における日本の社会保障の立ち位置を理解する ・ 地域における高齢者の健康/QOLについて理解する ・ 介護予防に果たす他職種及び地域住民の役割を理解する 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 ・ 実際の介護予防場面において本講義の知識を生かせるようになる
計画・内容	1. 介護予防の概要について：渡辺（理学療法士） 疫学の歴史と介護予防(1次～3次予防について) 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 2. 高齢者地域福祉の実際：渡辺（理学療法士） 統計からみる高齢化 / 社会への影響 / 地域共生ケアの重要性 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 3. 外国人医療従事者との協働 / 多文化理解：渡辺（理学療法士） 社会的背景 / 外国人労働者の光と闇 / 異文化コミュニケーション 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 4. 諸外国における社会保障：渡辺（理学療法士） 世界からみた日本の社会保障の特徴 / 社会保障国際比較 / アジアの社会保障 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 5. 健康格差を生み出す要因：新永（理学療法士）

2025年度

計画・内容	健康格差の正体 / 環境因子と個人因子 / 貧富の差 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 6. 介護予防プログラム（主にロコモティブシンドローム・サルコペニア） 一般的な介護予防のためのプログラム：新永（理学療法士） 予習：関連する講義ノートを読んでおくこと 復習：本日の講義ノートの再読 7. 認知症予防プログラム：新永（理学療法士） 有酸素運動やダブルタスクが認知症の進行の抑制に及ぼす効果と理由 予習：関連する講義ノートを読んでおくこと 復習：講義ノートの再読 8. 要介護に至る要因とその因果関係：新永（理学療法士） 介護予防に関する研究を紹介し、研究者の視点を学ぶ 予習：関連する講義ノートを読んでおくこと 復習：講義ノートの再読
授業の進め方	・テーマ毎にオムニバス形式のオンライン講義を実施する。 ・知識確認のためレポート課題を課す。 ・非対面の中でも可能な限りアクティブラーニングを取り入れ、演習も行う。
能動的な学びの実施	・介護予防に関する理解を深めるため、実際の事例を基に学生の意見やアイデアを取り入れながらディスカッションを進めていく。 ・多くの臨床現場で活躍される先生方が担当されるため、学生達の興味を引くテーマで講義を行い、学生からの質問や疑問を反映させながら進めていく。
授業時間外の学修	復習として授業内容や配布資料を用いて自分の講義ノートを整理する（各回1時間）。
教科書・参考書	特に指定せず基本的に毎回資料を配付する。 ・厚生労働省ホームページ上（http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/tp0501-1.html）の介護予防マニュアル（改訂版）はできるだけダウンロードした上で目を通すこと。 参考書 ・細田多穂・柳澤 健 編集; 理学療法ハンドブック 協同医書出版（22000+税）
成績評価方法と基準	提出課題(40%)・レポート課題(60%)より判定する。
課題等に対するフィードバック	・レポートは返却し、授業内で解説を行う。 ・学生からのコメントペーパーの内容を基に授業への反映や資料配布を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	本科目は、実際の様々な臨床現場で活躍される理学療法士の先生方が担当する実践的科目であるため積極的な姿勢で臨み、興味関心が持てる領域を見つけること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 オンライン（ZOOM）にて実施する。一方向にならないよう適宜声掛けや対話、グループセッションを利用したインタラクションを積極的に実施する。 成績評価方法と基準 対面と同様、提出課題(40%)・レポート課題(60%)より判定する。